



シリーズ

# 武雄の治水

vol.22

～水と共に生きるまちへ～

今回のテーマは

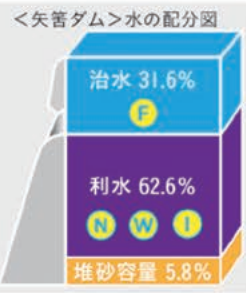
## 矢筈ダム特集

市内には、色々な役割を持つダムがあります。矢筈ダムは、六角川水系で最大の貯水量を誇り、治水面でも重要なダムです。今回は矢筈ダムをご紹介します。

### ダムの役割

一般的に、ダムには以下の役割があります。

- F** 洪水調節
- N** 流水の正常な機能の維持
- A** 農業
- W** 上水道
- I** 工業用水道
- P** 発電



**矢筈ダム** 「F・N・W・I」の4つの役割を持つ「多目的ダム」

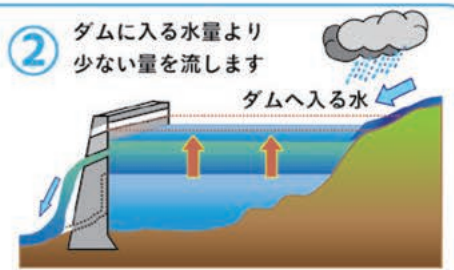
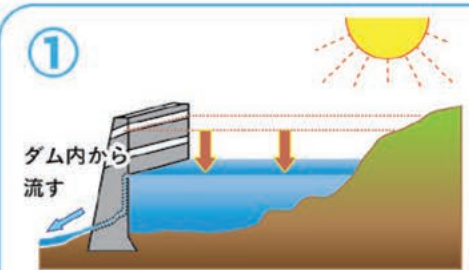
### 矢筈ダムの歴史と役割

六角川上流は、昭和42年、53年の洪水などにより、堤防の決壊・河川の氾濫を繰り返し治水対策が望まれていました。一方で、慢性的な水不足が発生しており、さらには生活様式の都市化に伴い水道の需要が急速に高まっていました。矢筈ダムは、それらの課題を解決するために建設されました。

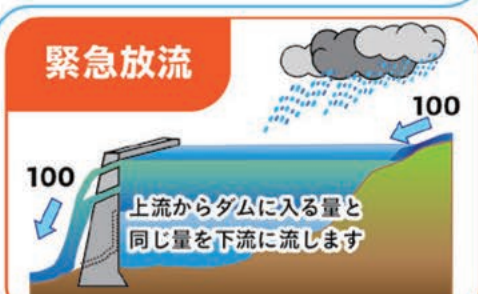
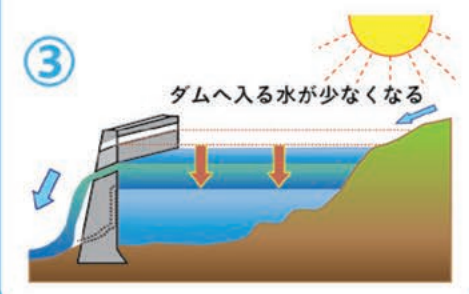


建設期間：昭和56年～平成4年／事業主体：佐賀県

### 洪水を防ぐダムの仕組み



- ① 洪水に備え容量を空けておきます。(↓部分)
- ② ダムに水を貯めて下流での水位上昇を少なくします。(↑部分)
- ③ 大雨の後に、次の洪水に備え容量を空けておきます。



これ以上貯められない時は緊急放流が行われます。  
貯めた水を一気に流すわけではありませんが、下流の河川の水位は上がるため、早めの避難をお願いします。

矢筈ダムでは、これまでに「緊急放流」が行われたことはありません。

### ダムによる治水対策の強化

佐賀県が管理する治水ダムでは、対策を強化する取組が進められています。矢筈ダムは、もともと44万㎡の洪水調節容量がありますが、6月から9月の期間はさらに水位を下げ最大63.1万㎡の洪水調節容量が確保されています。この取組は、利水容量の一部を出水期前までに放流することから、水道事業者などの利水者の理解を得て、令和2年から行われています。

### NEWS

#### 地域に愛される矢筈ダム30周年！

11月11日(土)、佐賀県ダム管理事務所主催による「矢筈ダム30周年記念イベント」が開催されました。普段は入ることができないダム施設(監査廊)の見学会、そして矢筈ダム多目的広場ではサムライ合戦やステージイベントなどが行われ、市内外からの多くの方々で賑わいました。



▲監査廊



▲矢筈ダム多目的広場

詳しくは 企画部 治水対策課 ☎0954-27-7097

シリーズ武雄の治水 バックナンバーはこちらから▶

